

2019 年、日中同時破綻の大波乱

『米国が仕掛けるドルの終わり』

ドル基軸通貨時代の終焉、中国の不動産バブル崩壊、世界経済はこう激変する!

(著者) 吉田繁治

(価格) 1,800 円 + 税 (発売日) 2017 年 7 月 25 日 (出版元) ビジネス社

株式会社ビジネス社(本社:東京都新宿区 代表取締役社長:唐津隆)は、2017 年 7 月 25 日に『2019 年、日中同時破綻の大波乱 米国が仕掛けるドルの終わり』を発売いたしました。

ドル基軸通貨時代の終焉中国の不動産バブル崩壊…。増発されるフィアットマネーが弾けると、アメリカは“ドル切り下げ”で再び借金を踏み倒す! 資産防衛はゴールドしかない。

ドル基軸が終わり、2019 年以降世界はこうなる!

- ・ドルが基軸通貨である以上、米国の貿易赤字は解消されない
- ・米国は戦後 4 回ドルを切り下げ、借金を踏み倒してきた
- ・トランプは米国こそが「最大の為替介入国」であることを理解していない
- ・次のドル切り下げは、早ければ 2019 年、遅くとも 2022 年
- ・ドル切り下げで、日本、中国がもっとも損失を被る
- ・通貨バスケット SDR が基軸通貨におさまる可能性も
- ・史上最大の不動産バブルが、2022 年までに弾ける
- ・2010 年から金を買っている中国

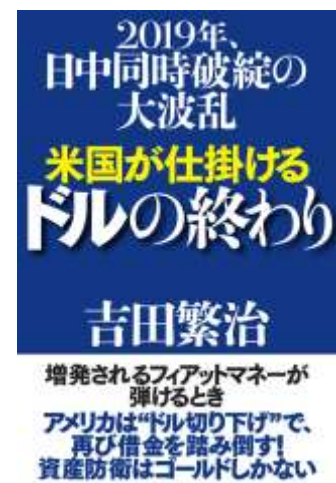
【本書の内容】

- 第 1 章 構造的な矛盾をかかえるドル基軸通貨
- 第 2 章 1994 年が起点になった人民元の躍進
- 第 3 章 世界の負債が極点に達しつつある
- 第 4 章 米国と日本の部門別負債
- 第 5 章 中央銀行の信用創造の限界についての予備的な検討
- 第 6 章 リーマン危機のあと、4.8 倍に増えている中国の負債問題
- 第 7 章 中央銀行の信用創造には、有効性の限界がある
- 第 8 章 主要国の負債の問題
- 第 9 章 中国の金融危機への対策

著者: 吉田繁治(よしだしげはる)

1972 年、東京大学卒業(フランス哲学専攻)。

流通業勤務の後経営と情報システムのコンサルタント。87 年に店舗統合管理システムと受発注ネットワークのグランドデザイン。経営、業務、システムの指導。95 年～2000 年は旧通産省の公募における情報システムの公募で 4 つのシステムを受託し、開発。00 年、インターネットで論考の提供を開始。



著者への取材、企画ご協力、読者プレゼントご対応も承ります。

《 お問い合わせ先 》

株式会社ビジネス社 広報担当: 松矢

〒 162-0805 東京都新宿区矢来町 114 番地 神楽坂高橋ビル 5F TEL 03-5227-1602 / FAX 03-52271603